

## 市民ホール建設準備会 第11回会議 議事録

〔開催要領〕

- 1 日時 平成22年10月25日（月）18時00分～20時55分
- 2 場所 小田原市役所 7階 大会議室
- 3 出席者
  - 委員： 桧森委員長 大森副委員長 市来委員 小笠原委員 勝又委員 桑谷委員 齊藤委員 関口委員 横川委員
  - 市職員：【文化交流課】 座間文化交流課長 古矢文化振興担当課長補佐 石塚主幹・市民ホール建設推進担当主査 杉本文化政策担当主査 高瀬主査 竹内主査 杉山主査
  - 市委託コンサルタント： (株)アクト環境計画 林代表取締役
- 4 傍聴者 12名

〔会議次第〕

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 視察の結果について
  - (2) 基本構想（案）について
  - (3) その他
- 3 閉会

### ○ 開会

#### 座間文化交流課長

それでは、ただ今より、市民ホール建設準備会第11回会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日もよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、最初に本日の資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料につきましては、資料の最初にあると思うんですけども、配布資料一覧のとおりとなっております。会議次第、基本構想検討資料という資料1-1、ご意見ということで資料1-2、あと、資料2、資料3、そして参考資料1ということになっております。不足等がありましたらお申し出いただけたらと思います。よろしいでしょうか。

それでは会議に入らせていただきます。会議の進行につきましては、「市民ホール建設準備会設置要綱」第5条第1項の規定により、委員長にお任せいたしたいと思ひます。桧森委員長、よろしくお願ひいたします。

### ○ 議題（1） 視察の結果について

## 桧森委員長

それでは、ただいまより市民ホール建設準備会の第11回の会議を開催いたします。改めましてこんばんは。お忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。本日もよろしくお願ひいたします。

今日は、私もだいぶ疲れ切ったので、できれば定刻に終わりたいなと思っておりますが、よろしくご協力をお願いいたします。

まず最初に、議題1「視察の結果について」ですが、10月4日月曜日に、めぐろパーシモンホールと鎌倉芸術館の視察をされた、勝又委員、小笠原委員、関口委員、各委員から簡単に感想をおっしゃっていただければと思います。まず勝又委員お願いします。

## 勝又委員

2つの劇場のスペックについては、本ホールと大変よく似ているのを選んで頂いと思います。2つの館について共通なのは、自走式音響反射板があることです。これは非常に重たいものです。コスト的には、非常に余裕のあった時代のものと思います。現状ではコスト的に難しいかもしれないと思います。

それから、めぐろパーシモンの方ですけれども、音楽主目的ホールですけれども、多分、日本で唯一、搬入車がトラックごと舞台レベルに降りられる車両専用エレベーターがあるというものです。現地を確認しましたが、今は、法的には難しいかもしれないとのこと。要するに、舞台レベルが地下1階ということです。逆に言うと、別に搬入車がトラックごと舞台レベルに降りる車両専用エレベーターがなくても、大型荷物エレベーターを作ればいいだけのことです。大型エレベーターを付けるだけでしたら、あっちこちにあります。目黒の車両専用エレベーターは、今のところトラブルはないと言っていました。しかし、エレベーターは機械ですので、普通は、万が一故障した時のために、サブの搬入経路というのを考えておいた方が良くないと思ひました。車両専用エレベーターにしても、通常のエレベーターにしても、当然地下に持って行くということはそれだけ、かなりイニシャルコストがかかってくるということは確認をしました。

それから、フライタワーについては、比較的敷地の後方部にあるのであまり目立たない印象でした。

それから、冒頭に言ひましたように、この2つのホールはまだ、日本が景気のいい頃のものであるので、空間的にも、仕上げ的にもリッチというか、コストがかかっているもので、今それを真似することは多分無理かなと思ひます。パーシモンの方は楽屋入口まで石が貼ってあるということで、これはちょっと真似できないと思ひます。パーシモンは、地下駐車場が公園の下にあったりとか、実は見えないところはかなりコストがかかっているなという印象でした。ただ、やはり目黒は非常によくできた計画です。

それから、これはプロジェクトとあまり関係ないんですけれども、鎌倉を見せていただひて一番びっくりしたのは、あそこは鎌倉市の土地じゃないということで、借地だったということです。

## 桧森委員長

はい、ありがとうございます。それでは小笠原委員お願いします。

## 小笠原委員

これは、両施設とも、かなり理想的と言いますか、お金もしっかりかかっている理想的なつくりということなので、見ていて、もう、言うことなしなんです。ただ、小田原にあれを持ちこんでも、先程勝又さんが言われたとおり、ストレートには、現時点では真似という訳にはいかないだろうと思いますけれども。ただ、作り方の基本は、両方とも良い意味でスタンダード版になりうる形なので、そういう点ではレイアウトとしては参考になるんじゃないかと思います。

めぐろパーシモンの方は、文化福祉施設と、それからアパート、住宅群と、公園と3つ揃って、3点セットで出来ているので、これはホールというよりも、タウンですね、ミニタウンという形で都立大学の跡地に設定している訳ですから、そういう点では、非常にうまく設計して、いい形で納まっているというふうに思います。これは小田原にすぐ持ち込むという訳にはいかないんですけれども、ホールとか、展示施設とか、その他の関連施設の関係なんかは、なんらかの形で大いに参考になるだろうと言うふうに思いました。公園とホールの景観の関係も非常にいいですね、距離がありますから、相当、ホールの方は高さが高いんですけれども、あまり抵抗感がないということですね。公園自体が現代的な公園ですから、そういう意味では、どういう建物を持って来てても合うことは合うということが言えると思います。

それから、鎌倉芸術館ですね、こちらの方は、松竹大船撮影所の一角ですね、それを、私は買ったかと思っていましたが、今聞いたら借地だそうですけれども、割合広いスペースにゆったりと建てて、堂々たる建物ですね。これもギャラリーなんかも、多分、齊藤さんがご覧になったら、よだれが出るような、ゆったりとしたぐるりとした作りで、中庭を真ん中においてね、ちょっとやっぱりあれもスペース的には大変贅沢なつくりになっておりますので。ただ、そういう気配りをしてホールとギャラリーを配置しているという形は、使う側の立場に立ってみると非常にすばらしいということになるかと思えます。劇場の仕様に関しては、私は専門ではありませんので、あまり、述べるという訳にはいきませんが、ただ、全体の施設の置き方、考え方ということでは、いろんな意味で参考になる、非常にいいモデルではないかという印象を持ちました。以上です。

## 桧森委員長

ありがとうございました。では、関口さんお願いします。

## 関口委員

今、お二人の先生からの概略の中で、どういうところにポイントがあったのかということでお話を伺いました。私も基本的には、そのような考えを抱いておりましたけれども、私なりに感じたことをちょっと述べたいと思います。

鎌倉の方は、恐らく、近場ですから、見学をされ、その会場に足を運んだ方が小田原には多いかなと思います。めぐろパーシモンホールですか、これは、ちょっと訪れるのは大変かなと。距離が大変という意味じゃなくて、なかなかそういう機会を得ないと中に入れないうじゃないかということで、この目黒の方は、パンフレットの資料から引き出しますと、目黒区と東京都が一体となったと。2002年に完成されたと、実際2002年に完成されても、

この立ち上げは昭和56年3月スタートしたということで、実際には平成8年、あるいは平成7年に基本設計が、あるいは計画が決定されたと書いてありました。小笠原先生がおっしゃったように、これは複合施設でして、教育文化福祉環境、大変膨大な施設でございました。大ホールが1200席ですね、それから、小ホールが平土間形式及び200席の劇場形式ということで、大変すばらしいなあという印象を抱いてきました。

施設のことですから、ついでに鎌倉芸術館のことを申しますと、平成2年に起工式で平成5年に開館されたということが書いてあります。大ホールが1500席、これは、音響にあらゆる装備を尽くして、観客を魅了する、絶対に自信を持ったホールだというように書いてありますけれども。まさにその通りだと思いますけれども。小ホールは、小ホールと申しても600席を有しております、これは演じる、見るための多彩にして自在の空間というようなキャッチフレーズが書いてありました。

この2つから考えますと、とにかく非常に大きな施設でございますので、今、私たちが考えているレベルとは、はるかにかけ離れているものですから、どれもこれも、あれよあれよという思いがどうしても先走ってしまう、でも、率直に私の感じたことは、やっぱり踏み込んでみて、いいなあ、欲しいなあという正直な気持ちになる訳でございます。言い換えると、いろんな事情があるにせよ、建てるべきところに建てられた、ゆったりとしたゆとりのスペースというのが、これが実にうらやましい限りでございます。ホール機能としては、まあ、大きい小さいは別にしまして、やはり、要望に応えた、市民にとって必要なものを抱き込んだ施設というところに、私は目を見張りました。それから、お話出ましたけれども、自然との一体感、融合という面から触れますと、目黒の方は、自然の公園、広場、その木々を大きなガラスの向こうにまるで絵を見るような、そういう配置をいたしまして、私は、好みかもしれないけれども、ホールというのは、そういうゆったりとした美しい雰囲気の中で何かを求めていくという人の足を止めなければいけないというように思いましたし、鎌倉の方は、竹林の中に埋め込みまして、その回りに展示室を設けている訳ですね。どこから見ても、竹林が目に入る、ギャラリー、エントランスの四角い角度からどこでも見えるというようなことで、私は、互いに景観との調和を活かした、同化した、そういうものがホールの中に活かすことは欠かせない、1つの良さであろうというように考えました。ですから、そういう一体感の中で、その環境の中で心を洗って劇場に入る。こういうようなことは、精神面に於いても非常に大事なことではないかなという気がいたしました。建物というのは触れば冷たいですけれども、中に入れば素晴らしいぬくもりが漂っていると、そういうようなものが、私のホールに関する大切な理想です。それから、再三申し上げますように、やっぱり景観との調和です。お互い景観の中に融けあっていく、そういうようなことは是非とも必要であろうと考えました。

ちょっと長くなってごめんなさい。ある意味で今、大きな話題になっております、ロールバックですね、このことに関しては、実は小田原は小ホールに関しては、今までは劇場機能を持った施設がありませんでしたので、その辺が、小田原としてはある意味で掘みどころがない訳です。恐らく今度は、小ホール系は何かの形でできると思うんですが、その小ホールをどのように、例えば稼働率を考えるのか、あるいは、先読みして、若い人たちのパフォーマンス的なものもできる、あるいは、もちろん昔から受け継がれた、実績ある利用団体。舞台があつていろいろな催し物に参画できる。その辺の見極めが実は大変難しいのではないかと

というように思いますけれども、いずれにしてもしっかりとした機能が備わったものでないと、まったくこれは、箱だけになっては意味がないと、コストの問題も再三言われていますけれども、そのようなことを感じました。長い時間を取ってもいけないので、自分が率直に感じたことを申し上げました。

#### 桧森委員長

はい、ありがとうございました。それぞれ、お3人の報告で参考になるところがあったと思います。

#### 勝又委員

今話を聞いて思い出したことがあります。鎌倉と目黒は、実は、かなり敷地に余裕があるホールに見えます。鎌倉は多分敷地に余裕があったと思います。しかし目黒は、小田原の条件と結構似ているところがあります。目黒は真ん中に大きい公園がありました。あそこは公園ですので、建物を建ててはいけないゾーンだと思います。ですから、実は目黒の劇場の配置を納めるためには、設計上かなり苦労していて、それがうまく解決されています。また、いらっしゃった方は分かりますが、地下に小ホール、地上に大ホールがあるという意味で、小田原と非常によく似ていると思います。

それから、目黒の建設に当たっては、反対運動があったと伺いました。あんなにすばらしいロケーションなのに、実は2点の理由で反対運動があったということです。1点は、フライトタワーの高さ、それを解決するためにワンフロア下げたと。もう1点は葬祭場です。それでかなり長期間、周辺住民の人達と話し合っ、説得したということです。

それから、鎌倉の方は、私も鎌倉芸術館というのは面積分析を、かなり詳細な面積分析をやったことがあります。鎌倉はかなりスペース的に余裕があります。ロビーの広さとか、それから、ロビーに入って大ホールのロビーに行くまでに階段登ってぐるっと廻っていく、竹林を廻っていく、あんな贅沢は現在では難しいと思います。アプローチを贅沢に作るならば、代わりに展示場のスペースとしてくれとか、あるいは他のスペースにくれとかいうことになります。鎌倉芸術館は計画上、よくできていますが、現在の段階でこのように余裕のある施設を作るにはスペース的に難しいと思います。スペース的には、めぐろパーシモンの方が参考になりました。

#### 桧森委員長

はい、ありがとうございました。それでは、次に進みたいと思います。

### ○ 議題（2） 基本構想（案）について

#### 桧森委員長

次に基本構想案に進みたいんですけれども、この準備会に課せられたのは基本構想の策定ということで、今日を含めてあと2回ということになります。事務局側に今までの基本構想骨子から、文章化をしていただくことをお願いしてありました。一応、文章になっている、ほとんどが文章になっています。そこで今日は、一通り、基本構想案を章立てに沿って確認

をしていきたいと思ひます。まず、資料1-1、資料1-2について事務局の方から簡単な説明をお願いします。

### 座間文化交流課長

それでは、資料1-1、資料1-2の説明をさせていただきます。資料1-1は市民ホール基本構想（案）検討資料、資料1-2の方は各委員からのご意見についてということでございます。

資料1-1につきましては、従前の骨子案に基づいて、文章化すべきところは文章化し、箇条書きの方が分かりやすいと思われるところは、そのままと言う形にしております。従前と大きく変えている部分は基本的にはございませんが、9月1日に実施した市民との意見交換会の際に提示した骨子案では「今後の検討課題」としていた部分を、第8章ということで「建設準備会からの提言」としまして、これにつきましては前回の準備会でのご意見と、その後、各委員からいただきました提言や課題については、本文中にできるだけ反映させていただいております。

現在、両論併記となっております小ホール系機能や展示系機能、創造系機能については、今後のソフト事業等の検討を待たなければ、来年度以降の基本計画というところで検討すると思うんですけども、そういったところでなければ決めることができない部分というのものもあると思うんですけども、もう少し煮詰めてもいいかなという部分もありますので、この辺については、本日は別の資料を用意していますので、議論を進めていただけたらと思ひます。

次に、資料1-2「第10回会議 各委員からのご意見」についてですけども、前回の準備会の議事録を要約したものですので、基本構想（案）の検討の参考にさせていただきたいと思ひます。

以上で、説明を終わらせていただきます。

### 桧森委員長

ありがとうございます。資料1-2の各委員からのご意見については、特に説明はないんですね。

### 高瀬主査

要約になっておりますので、特に説明はございません。

### 桧森委員長

それでは、資料1-1の基本構想（案）の章立てに沿って検討していきたいと思ひます。文章表現の細かい部分をここで検討していきますと、かなり時間がかかってしまいますので、基本的な考え方のところ、あるいは両論併記となっているようなところ、それから課題として残しているような部分について、現段階でどう考えるのかということを確認していきたいと思ひます。来年度、「基本計画」に取り組むことになっていきますので、この基本構想については、実は残した部分もあってもいいのかなというふうにも思ひます。ただ、方向性はここで決めて、次に行きたいというふうには思ひます。

事務局から何点か資料も出ておりますが、そうした課題について、その都度、事務局から資料説明をしていただきながら進めていきたいと思っております。

まず、1の策定趣旨、2の基本理念の部分ですね、資料の1ページから6ページのところですね、これについてみなさんの方からのご意見をお伺いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

#### **齊藤委員**

ひととおり読ませていただいたんですけども、あんまり議論するつもりはないんですけど、1ページ目の、小田原市民会館の現状というところで、まあ、これは今のところがどうだこうだというのも、あまり今回の検討委員会の本来の趣旨ではないと思っておりますので、細かくはしなくていいと思うんですけども、ここに、読ませていただきますと、舞台のことは書いてないんですね。だから、展示系の現状というのも、是非付け加えていただきたいということです。中身については、今まで何回か出てきておりますので、省略いたしますけれども。

#### **小笠原委員**

それでは、その、展示のことについて文章を付け加えてもらうに当たって、齊藤さんの感想を1回ここで述べてもらった方がいいんじゃないかと思っておりますけれども。

#### **齊藤委員**

今まで、例えば第8回の会議の中でも細かくは申し上げておりますけれども、1つ参考になるのがありますのでそれを。では、そういう話が出ましたので、実は平成10年に市文連の方から、前に石井会長の頃に、市と教育委員会の方に要望書が出ているんですね。その時にこういう文言がありますので、それをちょっと読ませていただきます。「本市には、展示専用と言える施設がなく、そのため、展示壁面、照明等、不適当な設備を市民の展示関係の発表の場としているのが現状である。展示施設の存在しない街との評判はよく聞かれ、極めて遺憾な状態にあると言えます。」というようなことが現状として書かれています。ちょっと抽象的なところはあるんですが、大まかにはそういうことだろうと思っております。

#### **桧森委員長**

市民会館の現状として、展示の現状というのを考えた場合に、必ずしも展示にとって充分ではないということが表現されていればいいということですか。

#### **齊藤委員**

具体的に申し上げますと、展示スペースが足りないということから、本来、展示には適さない小ホールですとか、ロビーとか、渡り廊下とか、そういうところにパネルを立てたり、照明も不十分ですし、機能的にも満足できないところを使って、なんとかやってきているということです。ちょっと言い方を変えるとそういうことです。これは、市民会館についてのことですけれども。

## 桧森委員長

今の展示用のスペースがありますよね、そこについてはどうなんですか。

## 齊藤委員

あそこは元々隣の食堂と同じ仕様になっていまして、照明から何から全部ですね、そこを仕切って展示室にしたというだけで、表札は展示場ですけども、中身は照明も、暗いところもございまして、タイルの壁があったりして、展示ができないスペースがあったり、本来の展示場ではないと思いますね。そういう意味で、今、読み上げました中では、展示専用の施設がなく、というところになるんじゃないかと思います。機能の面で言いますと、昨日で我々の西相美術展が終わったんですけども、1階から2階、3階までやる中で、展示パネルを約100枚前後、年によって、作品数によって変わりますけれども、100枚ぐらい、それも5種類あるんですよ、パネルが。それを組み立てまして、中には、2階の渡り廊下に使っているのが20枚ほどあるんですが、これは、大ホールの地下にある倉庫からみんなで担ぎあげるといこともやっています、前時代的な設備であるということが言えると思うんですね。照明は、この前見学していただいたように、暗い、ホールの高い照明の中でやっておりますので、これが展示場かということになるかと思います。大森さんも、この間見ていただきましたけれどもね。そういう状態です。ですから、何らかの形でここには入れていただきたいなと、そういうことです。

## 桧森委員長

分かりました。今の、齊藤委員の意見以外にどうでしょうか。1と2のところですけども。結構ここは、理念的なことが書いてあるんですけども、この理念でいいのかどうかということがあると思うんですが。まあ、私たちが今まで議論してきたことが理念的に盛り込まれているかなあという気がしますけれども。どうでしょうか。

## 関口委員

ホールに関することになると思うんですが、今まで市民会館を問わず、他の生涯学習施設、いわゆる文化施設ですが、それをいろいろな形で使われてきた訳です。ここにきて、そういう調査もあわててし出したような、そんな訳で、資料からの討議は十分ではありません。そういうことがあるものですから、今までの小田原の過去の実績というものがあくまでも基本になって、将来構想、未来構想に繋げていくのか、またもう1つは、未来、将来を見越しての文化活動、市民意識、そういうものを、想定の中で1つの形を掴みだして、そういうことの中で進めていくのか、それをお考えなのか、これは賛否ではありません。その辺をもう少し整理をされた方が、具体性が出てくるのではないかと思います。

## 桧森委員長

今の関口さんのご意見に関して、いかがでしょうか。

## 小笠原委員

それはもう、まさに基本的な問題ですね。要するに、使う側の立場でどのようなものを作

っていくかということになる訳で、これをきちんと整理していくためには、今までの実績、活動のあり方、成果をきちんと一度分析して、これまでに、何がどのように出来てきたのか、これを整理してから、今後の可能性を展望してみるということが1つあるでしょう。

それから、未来に向けては未知数ですが、あまりあてずっぽうに想像だけでまとめるという訳にもいかないので、これはよそ様の事例で身近に感じられる事例があれば、それらをいろいろ取り上げてみて、小田原ではどういうことが可能なのか、小田原の実態にそれを当てはめながら探っていくって、可能性があれば、どう取込んで整合させていくかということだろうと思うんです。とは言っても、この作業は実際には割合大変かなあという気がいたしますので、調査や作業の仕方について、どのように取り組んだらいいのか、いろいろアドバイスをいただけたらいいなあと思っております。

### 桧森委員長

この基本構想の中では、基本理念の小田原の文化的な潜在力ということが書いてあるんですけども、今までの議論の中では、基本的には小田原には文化的な潜在力があるということ的前提にしている、あるということは、今までの実績でも表現をされているし、さらに、実績では出ていなくてもいろいろある、多分若い人たちの活動もあるという、それが前提です。その潜在力があるんですけども、それは、施設の制約の問題もあって、今まで十分に発揮できていなかった。だから、その潜在力が、新しい施設によって充分発揮できるようにしていきましょう、というのが、この基本理念の趣旨だというふうに思います。潜在力なんかないって言われちゃうとまずいんですけども、基本的にはある、というポテンシャルの高い小田原市の現状というのを前提にして、だからそれをもっと活かすためにホールが必要だという考え方だと思いますので。細かい文言はちょっと別にしても、その辺の理念みたいなものが、ある程度表現できていればいいかなと思います。

ここから先のところは、ホールの使命のところに書いてある、育てる、感動する、つくりあげる、つどいわかちあう、ここをどう具体的にやっていくか、その方法を、ホールが出来上がるプロセスと並行して充分に練る必要があるだろうと思います。ポテンシャル、潜在力があるといったところで、まず潜在力が潜在しているので、これを顕在化していくプロセスが、ホールを作っていくプロセスと一緒に必要だということを経験認識として持っていればいいんじゃないかなと思います。今関口さんがおっしゃったことと小笠原さんがおっしゃったことは、そういうことになると思います。

### 横川委員

確かに、今桧森委員長がおっしゃられたことに、本当に隠れているものが表にあらわれてくるような活動ができるというのが、一番いいと思うんですね。ですから、それが実現できるようなホールということを経験しているんだよということを、みんなで認識できたらいいんじゃないかなと思っています。

### 桧森委員長

私は小田原市民ではないので、もっと自信を持っていいんじゃないかなと、小田原市民が、というふうに思っているんですけど。

### 大森副委員長

その潜在能力なんですけれども、ホールを使っていない場所で結構目にするのが、今、文化祭が始まりましたので、いろいろと目にする機会が増えてきました。特に、ミュージックストリートとかだと、ものすごい数のバンドが街中でパフォーマンスしていて、この日、別の場所に行って文化活動的なものを見ていたので、あまり詳しくはチェックできなかったんですが、本当に若い方が多く参加されていて、また、年配の方もおやじバンドとかそういった方もかなり参加されていました。演劇の方でも、小田原を離れた場所でやる方もこれから見に行く予定があつたりします、小田原在住の方ですが。あと、歌の文化祭も、ものすごい数の合唱団が存在していますので、まだまだそこに参加していない団体もあるかと、私は想像しています。

### 桧森委員長

そういう意味では、ポテンシャルがあるんだろうと思います。

それともう1つ、小田原で今まで満たされていなかった欲求というのは、もっといいものを見たいとか、いろんなものを見たいとか鑑賞したい、聴きたいという欲求が充分ではなかったという部分ですね。実演芸術にもっと触れたいということも、潜在的にはあるんだろうと思うんですね。そういうものが、このホールをきっかけとして顕在化していくことができるというふうなと思うんです。その可能性もどうでしょう、充分にあるんじゃないでしょうか。そんな形でこの理念というものが考えられるというふうに思います。今のところ、1番、2番のところはよろしいでしょうか。

### 小笠原委員

ということであれば、この潜在力というものをどうやって認識していくか、掘り起こしていくか。さっき大森さんが言ったように、いろいろなミニバンドが活躍したり、いろんな方々の活動がある。これらのある程度リサーチして、リストアップして、いろんな可能性のある活動をできるだけ洗いざらい上げて並べてみるということも、検討材料としては、その方が分析しやすいんじゃないかという気がしますので、この辺の手だてをどうしたらいいかということが、これからの課題になってくると思いますけれども。

### 桧森委員長

これはね、このホールを作る、作らないに限らず、文化交流課の本来のお仕事だと思うんですよ。ですから、本来のお仕事として、市内の文化資源についてもっと詳細に拾い上げてリサーチをしていく、そういうことは、ホールができるまでには必要なことですので、それは本来のお仕事として、こつこつとやっていただくということでもよろしいんじゃないかと思いますが。

では、3の事業の基本方針の部分、7ページから11ページについてですけれども、これについてはいかがでしょうか。

個人的に意見を言わせていただければ、例えば「そだてる・育成普及」みたいなことは、まあ、言ってしまうえばそうなんですけど、これは、市の施設が、これは、誰がそだてる、育成

するんだらうかというのがあるんですけれども、どうなんでしょう。これは文言の問題なので、また別途提案したいと思います。他に皆さんいかがでしょうか。

今ここで議論していることは、このホールが出来たときに、それはがらんどうの貸館ではないぞということを言っている訳ですね。この館としていろんなことをやっていくと、そういうことを言っている訳ですね。

### 市来委員

その前のところも含めてなんですけど、「そだてる」、「感動する」、「つくりあげる」、「つどいわちあう」、それはよく分かります。「そだてる」が育成事業、「感動する」が鑑賞事業、「つくりあげる」が創造参加。ここまでのところが、次の事業のところ大体リンクしているんですね。だけど、「つどいわちあう・・・施設貸出」と言った途端に、なんか突然身も蓋もないことが出てきているかなという感じがどうしてもするのと、でもそれが現実です。魅力ある場所であってみんなが使いたいという場所でない、これは成立しないという一方で、施設を維持していくためには、貸館としての収入がきちとなされないと駄目なのです。それが、実は非常に大きな要素に将来的にはなる訳です。ホールが主催していく事業以上に重要なところがここにあるんですけど、それが、「つどいわちあう・・・施設貸出」と、何か、実は重要なポイントかもしれないところが、実は身も蓋もないところに収められていて、その次の事業の基本方針というところにちょっとリンクしていないかなあというのが、前々から気になっていて、こうやって文章化されてみると、その部分が非常に表に立って来たかなあというのが感じます。それで、魅力ある云々に関しては、次の「必要とする機能」に行くしかないという、機能じゃなく、魅力ある空間であるということを発信して、市民とともにこの施設を使いながら維持していくためには、みんなを使いながら了解して、お金が発生して維持していくんだというコンセンサスをとった上でやっていかないと、これは成立しないことなので、この辺のところもう少し固められて、もう少し表に出たらどうなのかなというのが、ちょっと思っちゃうところですね。

### 桧森委員長

そうですね、これは、施設として考えると、かなり質の高いサービスを提供するという視点がないと、せっかくすばらしい施設なのに、貸し出しの受付をしている女性が仏頂面で、何か「はいよ」みたいな態度だったらぶち壊しですよ。しかも、貸し出される側にとってみれば、施設の状態というものが常に、借りる側にとっていい状態でなくてははいけないし、そういう意味では、かなり実は戦略性のある部分だと思います。

### 市来委員

なので、そこの文章が、どうしても主語と述語が逆になっているような、施設の貸し出しを通じて共感し合う場を提供するのではなくて、共感し合う場を作るために施設を貸し出しするんだということなのではないかという、これが、どうも逆のように思うんですね。そうすると、ああ、みんなで共に使おうということになって、例えば貸し出しの期間が何日までが上限なんだということができたとしても、その理由が求められるんですけれども、そうでなかったら、館の側の都合、この施設側の都合で、いろんなものが決められたものを、利用

者はそのとおり使うしかないんだという方向になってしまう。それを逆転しないと駄目だと思うんですね。そここのところのポイントを、何か見つけないと駄目かなと。魅力ある施設にするためには、そここのところが大きなポイントかなと思っています。

### 桧森委員長

今の市来さんのご意見についてはどうですか、皆さんも、いかがでしょうか。大体皆さんもそういうふうにお感じだと思いますが。では、今のところについては、市来さんの主旨はお分かりになるとと思いますので、その辺をもう少しうまい形で、ここに積極性を持たせる表現にさせていただくと、この「つどいわちあう」の、この5ページの部分と、事業の基本方針の方についても、その部分の位置づけが必要だと思うんですね。

### 桑谷委員

私も今日提案する予定でしたが、施設の貸し出しというのは、運営の面からみればすごく重要な役割を持っていて、市民と市民が出会い、市民参加の出演者と市民が交流する、また、アーティストと市民が交流するなど、そういうことと言えば、「つどいわちあう」じゃなくて「つどい交流する」とした方が、施設を使って交流するんだと、市民の皆さんにとってはそこが交流の場だということを、はっきりうたった方がいいのかなと。そうすれば、ホール側にとっての貸し館事業は、重要な事業であるということになります。そういうことと言えば、「つどい交流する」という表現が、「つどいわちあう」よりはいいのかなと思います。

### 桧森委員長

これは実は貸し出しではなくて、市民がその場所を使って、新たに表現したり創造したりして交流するということなんですね。ですから、恐らく量的にもその部分が多くなるはずで、多くなること自体がいいことだという考え方がある訳です。積極的にこれを使い込んでいく訳ですね。そういう意味では、今、桑谷さんがおっしゃったような、そういう表現にした方がいいのではないかと思います。上の方の「つくりあげる・・・創造参加」は多分、これはホール側の方がそういう仕掛けをして、参加してもらおうという形だと思うんですね。そうじゃなくて、市民がここを積極的に使って創造していくというのは、この4番に入る訳です。

### 小笠原委員

ですから、その辺は、能動的に動いていくことの表現を、できるだけ物理的にダイレクトに表現していった方がいいと思うんです。あんまりきれいな言葉で飾ろうとすると、なんとなく漠然とは分かるんだけど、なんでも当てはまっちゃうから、結局は焦点が分からなくなる。今の「つどいわちあう」なんていうのは、救援物資を分かち合うことにも全部繋がってくるので、これはそうじゃなくて、これはもちろん、恩恵なり楽しみを分かち合うということなんでしょうけれども、その分かち合う以前に、そこに何か人間が行動していることがある、それが今言われている交流という動きだと思うので、そういう言葉をできるだけ掴まえて、物理的に分かりやすい表現でズバッと書いていった方がいい。綺麗な表現にこだわるところから、もう1つ抜け出してもらいたいなという気がします。

## 関口委員

反論ではないんですが、1つの形の中で分かりやすく分類したというように私は考えているんです。これは、表現はばらばらであっても、どこかで全部つながっているんじゃないかという気がするんです。これは私の考え方ですよ。だから、やっぱりどこかで関連してきて、緻密に、どこかで結び合っている訳ですよ。そういうふうにも考えることも、何か膨らみというか、繋がるための要素となる。ですから、皆さんの意見がいけないというのではなくて、私個人としてはそういう考え方もひょっと頭の隅をかすめるなと思います。

## 桧森委員長

これをお読みになって具体的な姿とか、具体的な活動というものがイメージできればいい訳です。イメージできない、抽象的過ぎてしまっていると、もうちょっと具体的にした方がいいかなというのはありますけれども。この文言のことについては、また皆さんにはご意見をいただくという形の宿題が後ほど出ると思いますのでよろしくお願いします。

いまの3番については、そういう意味では重要な論点が出たと思いますので、是非、この辺をしっかりと。その前の2番の「つどいわちあう・・・施設貸出」のところの意味合いというものを積極的に位置付けて、事業の基本方針の方にもそれを出していくという形になるかなと思います。こうしてみると、「つくる」「つたえる」「出会いひろげる」というのは、すべてホールが仕掛けている部分と、市民が自分たちで仕掛けていく部分と、両方あると思うんです。必ずしもそこはホールだけがやっていくことではないというふうに思いますので、そこをどう表現するかということは、事務局の方の宿題としてもいいかなと思います。他にいかがですか。

よろしければ、次の4番の「必要とする機能の考え方」及び5番の「施設内容について」、資料でいくと、12ページから21ページのところです。それについては、実は、小ホールの機能について両論併記となっておりますし、また、展示系機能、創造系機能や支援系機能についても両論併記という形で、課題が残っています。詳しいことは、来年取り組む基本計画の方になるので、ここで最終決定ということではないですが、この委員会として方向性を示せるものについては方向性を出して次の段階に進みたいと思います。

この展示のところについては、事務局から資料が出ていますので、まずその説明をお願いしてよろしいでしょうか。

## アクト環境計画 林

それでは、資料2についてご説明をいたします。「展示の規模とその利用形態について」というタイトルが付いております。これは、表といますか、ご覧のようになっておりますけれども、右の方に向かいまして上の方に数字が打ってございます。これは面積を表わしております。左の縦の方に小規模ギャラリー、小規模専門美術館であるとか、カテゴリーが4つほど分かれております。下にいくほど大規模な施設というふうに見ていただければと思います。ということで、このグルーピングされました4つの大きな楕円形が、これからご説明する内容でございまして、施設の頭に記号が付いておりまして、四角い記号がついておりますもの、これは、ホールと共にある展示スペースを表わしております。そこに書いて

あります数字というのは、そこにございます展示スペースの面積ということです。ただ、会館名は「文化会館」というような表現になっておりますが、その中の展示スペースということで面積を表現しております。それから、丸印は美術館ですとか、ギャラリー、専門施設ということで、同じような規模でどのような専門施設があるのかということを見ていただく、まあ、参考ということで、一般によく知られているような美術館の名前を挙げてございます。大体施設のイメージと規模ということを見ていただければということで作っております。

一番上の小規模ギャラリーのところは、個展ですとか、市民展でも1つのグループが展示を行うというようなイメージでございます。小規模の文化センターの中に、市民ギャラリーというような形で100㎡から200㎡ぐらいのスペースが付いているということでございます。いくつか事例がございますが、例えば富士見市の市民文化会館は、以前の資料の中でも取り上げましたけれども、3つほど展示スペースがございますけれども、合わせますと225㎡ということでございます。また、この中で、逗子の文化プラザホールとございますけれども、これはロビー空間等を利用して展示をしているということで、専門のスペースはございませんけれども、そういった利用の可能なスペースということで、入れさせていただきました。この中で一番下にございます大船渡市民文化会館は、この中では一番新しい施設になろうかと思いますが、100㎡程の市民ギャラリーが付いております。近くの南足柄市の文化会館等は、皆様よくご存知と思いますが、215㎡程の展示スペースがあるということでございます。この辺のイメージは、個展とか市民展でも小さなものということでイメージしていただけるかなと思います。

次のスペースのところは少し規模が大きくなりまして、200㎡から500㎡位の間ということで、300㎡から400㎡位の事例が多くなっておりますけれども、やはり、文化会館、ホールに付属したギャラリーというのが、このぐらいのスペースが結構ございますということと、美術館でいいますと、市の美術館ですとか、そういった規模の美術館も入ってまいります。ということでこの辺りのところをご覧いただければと思います。こういったところは、少し大規模な市民展、市民の皆様のご行動展ですとか、そういったことも行われてくるのかなと思っております。

次のクラスが大規模ということで、美術館で言えば中規模なんですけど、500㎡を超える、1000㎡未満ということになりますけど、この辺になりますと、ホールに付属するスペースというのは、事例としては少なくなっております。このぐらいの規模になりますと、美術館、あるいは、しっかりした専門のギャラリー、例えば、見学をいたしました横浜のあざみ野のギャラリーですとか、専門的な施設になってくるというあたりが見てとれると思います。

その下になりますと、まあ、1000㎡前後、超えるということで、この辺になってまいりますと、美術館としては、そんなに大きくはないんですけども、巡回展などもこなすような、美術館としての内容がほとんどということになってまいります。

ということで、文化施設として、ホールに付属するということを考えますと、世の中のおくまでも事例ですけれども、300㎡から500㎡、まあ、400㎡位の事例が非常に多いなというのを、一例ですけれども、抜き出して書かせていただきました。

## 桧森委員長

はい、ありがとうございました。ちょっと私から質問ですけれども、この、私もちょっと

関わった静岡市清水文化会館ですけれど、ここは、私の記憶では、かなりスペース的には厳しいところだったと思います。その中に、大ホールとこの500㎡のスペースを作るということでしたよね。

### アクト環境計画 林

ここは、今建設中なんですけれども、1階に500㎡のギャラリーをとりまして、その上に大ホールと小ホールを並べて入れていますので、ちょうど上下階の関係になっているということで、スペース的には、敷地面積はそれほど大きくないけれども、上下に積むことによって、500㎡のギャラリーを確保しているという仕掛けです。ですから、大ホールのエントランスが2階になっているというふうにお考えいただければ、分かりやすいかと思います。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございます。それでは、この部分については、小ホールのことと、展示スペースのことと、2つあるんですが、順番に見ていきたいと思います。

「Ⅳ. 必要とする機能の考え方」というところで、「施設内容の検討にあたって」、「多目的ホールについて」ということと、「コスト意識を持った整備」のところは、今まで議論してきたことが表現されていると思います。そして、「大ホール系機能、小ホール系機能について」のところ、それから、「展示系」「創造・支援系」「交流系」「管理系」のところが、これは、必要だということがここに書いてあります。そして「Ⅴ. 施設内容について」の「大ホール系機能」と「小ホール系機能」のところなんですけど、小ホール系機能のところは「建築的な段床式（固定床）の客席タイプの小ホールについての意見」「平土間にもなるロールバックチェア客席タイプの小ホールについての意見」「ホールタイプ、客席仕様は現段階では定めなくてよいという意見」この3つの意見がここに書いてあります。それから「平土間になるタイプを採用し展示と両立させたいという意見」「平土間になるタイプを採用しても展示との両立は難しいという意見」が書いてあります。これは、小ホールのところと展示のところは、場合によっては絡むこともあるので、一緒に議論していくことになるかもしれませんが、確か大森さんも、以前に意見を集約された時に、固定床の客席タイプの小ホールの要望が多いというお話でしたよね。

### 大森副委員長

聞ける範囲でのジャンル別に講師の先生から集約した意見は、固定床の小ホール希望、それからロールバックチェアについては、南足柄市の小ホールがそういった仕様になっているために、床の音の問題ですとか、低音の響きがかなり響くとか、そういった音の問題と響きの問題と、仕様も、長時間座るのはどうなんだろうという、長時間座るにはちょっと厳しいような感じですね。咳をただけで揺れるとか、そういった意見が多かったと思います。

### 桧森委員長

他にご意見はどうでしょう。先程、関口さんがおっしゃったように、固定席で、固定席の要望が多いというのは現実そうなんですけれども、例えば若い人たちの演劇とかパフォーマンスなどを考えた時に、平土間という考え方もあって、どっちがいいんだろうという話です

よね。関口さんはどっちがいいと思われませんか。

### 関口委員

私が一番悩んでいるのはそこなんですよ。だから、さっき、意見を言いましたね、小ホールに関して。要するに、作ったものは使われなくては意味がない訳ですから。大ホールにしても、小ホールにしてもね。ですから、過去の実態というものがそこに出てくる。しかし、それは無視して、平土間にしろ、あるいは段床式にしろ、どちらができるかそれは先の問題ですけれども、それをどのような人達がどう利用していくか、何のためにというところが、なかなか今の時点では掴みきれないでしょう。調査だけではね、とても。ですから、私としては、演劇ですからね、それは、段床式の小ホールが欲しいですよ。しかし、そんなこと、声を大にして言えませんよね、それで悩んじゃっているんです。

### 大森副委員長

小ホールの固定式の床で、まあ、200～300席の、きちんと演劇もできて、音楽もできるようなホールが近隣にあるかということ、ないんです。だから、ここは、小田原が作ってしまおうという意気込みがないかなと思います。

### 関口委員

だから、大森さんね、要するに小ホールは多目的と。多目的というのはいろんな意味があると思うんですけども、1つの決め方では、これが多目的だということは断定できないと思うんですね。ですから、僕の言いたいのは、鑑賞用のホールになってしまう訳ですよ。だけど、例えば平土間にした時には、いろんなサークルや、いろんな趣味の人達が、それをうまく応用して使っていく、そういう希望も多くなるだろうと思います。その方がいいという考え方も絶対にある訳なんです。そこで、僕はさっき言いましたように、段床式のホールがね。だけど、これは、演劇と音楽だけに限られてしましましょう。今は、主婦だって、ソシアルダンスだって大変流行っていますし、場合によっては、まあ、カラオケはね、劇場タイプの方がいいかもしれないけれども。そこはなんとも言えないんですわ、何か言うと叱られそう。お前、自分よがりなことを言うなど。今の時点ではそう考えています。これは正直な、今の率直な意見です。

### 桧森委員長

そうですね。では、これについて、専門の3人のご意見を伺っていきたいと思います。

### 桑谷委員

私は、ロールバック式を推奨していますが、理由として将来、パフォーマンスの形態がどのように変わっていくかということが1つあります。例えば、劇場の設備として常識だった、廻り舞台、それから花道、迫りというのが、どこの市民会館でもなくてはならないものだったんですけども、今は既に、それが絶対条件にはなっていません。そう考えると、これからの公立文化施設というのは、もっとフレキシブルに、市民の要望に応じていく必要があります。ますます多目的というか多用途の使い方がされます。これからの表現者は、しっかり

した額縁舞台よりも、表現の幅が広がる空間をより求めてくると思います。最近の小ホールを見ていると、額縁の舞台が少なくなっていることは確かです。

それから、美術展示と小ホールの関係は、かなり難しいと思いますが、例えば、お花を現代アートとして捉えた場合には、劇場空間の中で、照明を当てるなどの演出をしてやれば、現代アートとして大変面白くなると思います。しかし、それはある特殊な場合であって、小ホールをいつでも展示施設として使えるかという、それは当てはまらないと思います。

### 勝又委員

桑谷さんに質問があります。座・高円寺は、平土間のホールと固定席のホール、両方持っていますよね。私は、座・高円寺の固定席のホールを見たときに、「えっ、どうして平土間じゃないの」というふうに思ったんですけれども。あの辺、どうやって使い分けていらっしゃるのか、ちょっと教えていただけますか。

### 桑谷委員

地下にある「座・高円寺2」は区民ホールということで、客席と舞台は一部可変式になっていますが、基本的には固定席なっています。固定になっているのは、貸しホールとして区民の皆さんが、当日来てすぐ使える状態にということで、固定式のホールにしております。その日に公演が出来るということを前提としたものですから、固定の客席と舞台になっています。それでもプロセニウムではなく、エンドステージの舞台になっております。また、プロの公演に耐えられるように、舞台は、先ほど一部可変式といいましたが、スチールデッキで舞台が構成されていて、取り外しが自由に出来るようになっています。

主催・提携公演で使う座・高円寺1では、フリースペースとしての平土間から、自由自在に客席・舞台を作り変えることが出来るようになっています。このように2つのホールをプロとアマに使い分けしているのは、なかなか合理的な考えだと思っています。

### 桧森委員長

そうですね、市民の方がすぐ使うというと、どうしても固定席になるんですね。市来さんいかがですか。

### 市来委員

まあ、結論を先に言うと、僕は、これはものすごく難しい問題を建築家に与えて、答えを待った方がいいんじゃないかなという思いがします。これは、これの回答を出してくれる才能ある建築家がいるだろうか、というところの題材としては、非常に面白いのではないかなという思いがします。それから、そのパフォーマンスに関しても、今、例えばなんですが、映像の機器とかいうのが、非常に廉価で2,000ルーメンのやつが5万円とか3万円とか、そんな値段で映像ができる、そうすると、パソコンとそれだけで、すごく、映像で面白いことができるんですね。若者はみんなそれで、どんどんYouTubeに自分たちの作った映像を出しているんです。それを四方に映しながら体を動かすパフォーマンスとかというのは、これはもう、東京である必要ではなくて、結果的にそれをやっているのをYouTubeに載せて世界発信しちゃうんですよね。そんなような時代になってきているので、パフォーマ

ンスのあり方もどうなるかということが、ちょっと、今までの19世紀初頭にできたボーダーウィング、袖幕があって文字があって、それでプロセニウムアーチがあるという、そういう時代の表現から、非常に遠い所に来つつある中で、多分、美術の方も、そこの境目がどんどんなくなっていく。ただ、古典的なものも同時にやるというのが、日本の文化状況というのが、非常に特異な、両立している、江戸時代からのものがそのまま今もずっとあって、それで世界の最先端までいるんだという中に、日本の状況があるので、多分、展示ホールの方で、もしかしたらパフォーマンスするかもしれないし、それから、そっちの小ホールの方でパフォーマンスするかもしれない、いろんなことが考えられるので、この辺は、それと、もう1つ面積の問題が、実は建築面積の問題が非常に大きくて、これが、結果的には、できるものも出来ないということもあるので、もうちょっと先に結論を延ばしたほうがいいというのが、僕の考えですね。

### 桧森委員長

はい、分かりました。では、勝又委員どうぞ。

### 勝又委員

私の主張は、この12ページ、多目的ホールというところの真ん中辺りに書いてありますように、建築の技術、劇場のテクノロジーは進歩しているので、それを信じていただいた方が良くと思います。あとは、もうお話し合いの上、作っていただければいいと思います。どちらを作ってもよろしいと思います。ただ、少なくとも劇場技術の最先端はもっと進んでいます。逆に、さっきの桑谷さんの話にもありましたように、プロの人は何もない、ある意味で何もない方がいいですから、客席が邪魔、ロールバックも下手すればいけない。それから、200席から300席でプロセニウムタイプの劇場にすることというのは、ちょっと、違和感があります。こんな小さいプロセニウムタイプの劇場を作ってしまったいいのかなと思っています。

この規模で、側舞台を持っているホールは、あるかもしれませんが、そこまでやるかなと思っていました。フライタワーもある訳ですね。するとその部分もぼこっと上がってくる訳ですよ。ということは、地下に埋めるということは難しくなるかもしれません。

### 大森副委員長

近隣で、このぐらいのホールが欲しいというところは、厚木文化会館です。厚木文化が400席ぐらいですから、400席じゃちょっと大きい。小ホールのことです。そういうイメージですね。あと、大きさ、使い勝手については、二宮のラディアン、あそこは500席なんですけれども、ちゃんと舞台の後ろに楽屋があって舞台袖も広いです。

### 勝又委員

今、劇場作ったら、ちゃんと楽屋はできますよ、設計者に言わなくてもできます。

### 大森副委員長

その当たり前な事ですが、小田原しか使っていない人に説明するのは、ものすごく時間が

かかるんです。今、小田原しか使わない人は、今の劇場がそういう仕様になっていることを知らないんです。

### 勝又委員

そのぐらひは、設計者を信じていただいても間違いなくできます。それより、私が心配なのは、プログラムを厳しくすればするほど、不便なところが出てきてしまう可能性があることです。楽屋は舞台のすぐ脇、できれば下手の方を中心に楽屋があった方がいいと思いますけれども、いろいろ厳しい設計条件を作っていくと、(計画上無理な部分がでてきて) そのうち、楽屋が階段で下にいってしまうところに配置されるとか、どこか不便なところに配置されてしまうことがあります。ですから設計条件を示す際に、「ちゃんと舞台に出られること、楽屋は使いやすくすること」と、一言入れていただければ、楽屋は間違いなくいいものができると思います。

それはともかく、もう1つだけ、これは林さんに聞きたいんですけれども、もう1つびっくりしたのは、静岡市清水文化会館で、私もちょっと関わったことがあります。どうして小ホール、段床で固定席にしたのかということです。私が初めてコンペ要項を見た時に「えっ、どうして」と思ったんですけれども、何か理由があるんですか。

### アクト環境計画 林

これについては、当初は市の方はもちろん、ロールバック、平土間ですとか、様々な検討をしていましたけれども、1つは市民の皆さんの要望がありました。ただ、もう1つは、周辺の町の合併が進んで行く中で、周辺に実は平土間のホールがたくさんあって、それが静岡市内に吸収されてくるということが分かってきたんですね。ということで、これは、既にある平土間のホールがいくつも市内に入ってくることになるので、同じようなものがたくさん出来てくるというのは、ちょっと具合が悪かろうということと、もう1つは、敷地のお隣にテルサという以前からある施設がございまして、これは、500席ほどの平土間になるホールなんです。ということで、やっぱりそういう意味では棲み分けをしていくべきかなということで、平土間が2つ並んでいるということもなかろうということで、市民のご意見もありましたけれども、市の判断としても、周辺の施設状況から見て、最終的な判断をしたということでございます。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございました。

### 小笠原委員

だんだん話が面白くなってきましたね。私は、ロールバック式の平土間にするということに対しては、かなり疑問符は持っておりましたんですが、ここのところ、ずっとあっちこっち見学させていただきまして、思いのほか、小ホールは、平土間、ロールバック式を採用しているところが多い、確かに、いろいろ問題点もありそうだし、パーフェクトではないんだけれども、しかしそんなこと何するものぞと、堂々と使い切っていくという、使う側に非常に図太い創造力というか、使い切る姿というのが実感されました。まあ、その中でも特に、

市来さんや桑谷さんのところは、プロフェッショナル集団があって、パーフェクトに使いこなして完璧にやっている。これはちょっと、別格総本山になる訳ですけども。前回行きましてパーシモンホールの小ホールなんか、平土間式で、堂々と使って、プロの使用者が、あまり不満もなさそうに正々と使いこなしているというところを見ますと、実用度は確かに高くなっているかなと思います。仕様の細部を見ると、ロールバック式はなんとなく、椅子の格好とか、形の上では堅さが目立つということもなくなっているんですけどもね。まあ、それはそれで使っていこうと思えばそれなりに使えるということもあるのかもしれないという気がしてきています。しかし成城みたいに、必ずしも充分使い切れずに平土間の場合は、社交ダンスぐらいにはしか使えてないというところもありますので、それぞれの立場や条件によっては過渡期的な面は残るだろうと思います。翻って、小田原でどうやって使えるか、どこまで使えるのか、じゃあこうしてみようという具体的な確信が持てない、まだそういう段階だと思っていますので、市来さんがおっしゃったように、ちょっともう少し先に延ばしながら、検討を深めていくということはあるだろうと思います。ただ、ホールとしての機能が、より固定座席式への志向が強いようであれば、それは考えようがあるのかなという気がいたします。もう少し実情の知識なり認識を深めていくことだろうかなと思っています。

#### 桧森委員長

はい、分かりました。最後に私が、委員長ではなく個人としての意見を申し上げますと、私は、個人的には平土間反対論者なんです。これは単純なことなんですけれども、やはり、固定式の小ホールの需要が一番多いということがあると思います。別にヤマハ音楽教室をやっていたからではないですよ、音楽教室の発表会をどこでやるんだということでもないですけども、事実上、そのニーズが一番多い訳です。

もう1つ、平土間の問題は、平土間を使いこなそうとしたら、ホール側が相当積極的にいろんな仕掛けをやらなければならないんです。それが、運営組織としてできるかどうかということが問題なんです。自然に平土間を使いこなしてくれる団体が現れるのを待つという姿勢では、なかなかそれは、十分な使いこなすというのは出来ないで、それは、ホール側が積極的に自主事業や共催事業で仕掛けていかなければいけない。それは、もちろん、桑谷さんのところみたいに、あるいは市来さんのところみたいに、それがメインになっている訳ですけども、なかなか、公共ホールを見ると、運営組織自体のそこまでの意識がなくて、なかなか使いこなしてないなという現実が多いのも事実なんです。そこで、この問題は、私も市来さんと同じように、先送りしていこうと思うんですけども、その理由が、じゃあ、運営を考えていった時に、どういうふうに運営組織が、どういう形のものができるかを、もうちょっと見て、その辺を仕掛けるような機能、あるいはスキルというものがあれば、おっしゃるように、可能性としては、平土間の可能性というのは様々ですから。

ただ、もう1点、展示スペースができますよね、これは、若い人たちのパフォーマンスとか、インスタレーションと実演の組み合わせみたいな、一番先端のところを見ると、実は、ホールよりもギャラリーを使った方が面白いというケースもあるんですね。今、「あいちトリエンナーレ」というのをやっていますけれども、そこでも実は、展示のところでパフォーマンスが行われているという公演がけっこうあるんです。そういうことも考えると、先端イコール必ずしもホールではないなと。展示スペースも、もっとむしろ、そういうことで使え

るかもしれないというふうにも考えられます。

そうしますと、じゃあ、ロールバックの平土間にした時に何をするのか、ロールバックの平土間って、地方のホールでは、社交ダンス、パーティ、それから展示会、こういう用途を想定して平土間にしているケースが多いんですけど、実は、その用途ってあんまりないんですよ。だから、結局は、ロールバックの椅子を出しっぱなしにして、あたかも固定席があるかのように使われているケースが多いという、これが現実です。ですから、いや小田原はそうじゃないということになるのか、どうなのかということについては、今後検討していつて結論を出せばいいかなというふうに思います。

### 市来委員

松本の市民芸術館の小ホールなんですけど、そこは固定席なんですね。ただし、幕類は、基本は飾ってない状態で、素舞台で非常にいいイメージの舞台が絵になっているんですね。ですから、大概の松本市内のアマチュア劇団の方は、パネルか何かで出入りのところを隠すぐらいで、そのまま使っていると、そういう状態でいろんな使い方をしてる。で、そういうことも考えられるかなど。先程言った、ボーダーウィングという文字袖幕ということじゃなく、そのまま見ただけで非常に完成された空間が出来上がっていて、段床式があると、僕と一緒にやっている、芸術監督の串田和美さんは、あそこは、使う時必ず張り出したり、客席と舞台との関係を崩して必ず作っているんですけども、そこを、ある可能性が、いろいろできるように、固定席だけれど、可能性を持って作ったという作り方も可能かなという1つ例として紹介させていただきます。

### 小笠原委員

それは、舞台の側が可変式で、そういう仕掛けにしてあるんでしょうか。

### 市来委員

いえ、舞台はただ、そのまま壁ですね、何にもしてない。上もフライがあって飛ぶ訳ではない、なんですけど、周囲が少し赤みがかかった壁になっていて、奥にはシックな木の壁が大きく作り付けられていて、それは見るだけである表情を持っています。そこに大概、黒いパネルを立てて、出入りを隠したり、そういう形で皆さんセットを持ちこんで、そこに飾り込んでやっていますね。袖や文字幕をセットすればあるし、バトンも全部降りるという劇場機能は全部付いているんですけども、基本としては、素舞台のまんまで見せるということが基本としてはあるという建築家の伊東豊雄さんの提案として、そういう形のホールが作られたという、これも1つの考え方かなあというふうに思います。

### 大森副委員長

自由な平土間ですとか、ロールバックとか、幕がないとか、それで一番引っ掛かるのは、小ホールは、多分、稼働率が上がると思われるのは、和物の先生たちじゃないかと思っているんですけども、そういった和物にもそういったホールは使われているんですか。新舞踊とか日本舞踊とか。

## 市来委員

ただ、間口が6間ぐらいですから、通常でいくと、和物をきちっとやるには少し狭いですよね。ソロで踊るならいいんですけども、もうちょっと間口が欲しいのかなと思います、そういう場所は。発表会程度にソロでおやりになるのならそれでもいいのかもしれませんが、ただ、黒い袖幕を付けてやれば、それは成立するとは思いますが、日本舞踊的な空間には、ちょっと横長の広々とした、東西に広いというイメージがあるので、それは大ホールで建っ端を低くして、広くしてやられた方が、姿は綺麗だと思います。

## 大森副委員長

大ホールでは広すぎるので、小ホールでやっているその日舞系、新舞踊もそうですね、特に新舞踊ってソロで、多くても6人ぐらいで踊るので、小ホールのその使用と、それと年齢の高い層で、とても市内で流行っているようですので、ゆっくりと座りたいとか、そういった意見が、前のホールの説明の時ですけども、和の先生たちの意見がすごく印象に残っているんで、自由にする、未来への、パフォーマンスもそうなんですけれども、私が聞いた限りのリサーチでは、非常にそういったものは望んでいない方がほとんどでしたので、それなりに説得力のある何かがないと、説明会の時に市民の皆さんが納得されないようなことが起きるのではないかと、ちょっとそれを心配します。

## 桧森委員長

そこについては、逆に言うと、ある意味でホールというものが、市民の新しい創造性みたいなものを、ある種、刺激して喚起していかなきゃいけない部分もあるので、必ずしも、今現在おやりになっている方の納得を100%目指した場合には、逆に、それ以外の膨大な人達の、先程言った潜在的な部分というのは満たされなくなってしまうんですね。ですから、ある程度、ここのところについては、説得が必要ではないかなと思うんです。

それと、思ったんですけども、300席という客席数で、縦横のバランスを考えた場合にステージの広さというのは大体決まってくる訳ですよ、そういうようなことを考えた時に、確かにちょっと日本舞踊には狭いかなという気がするんです。固定席にするにしても、ロールバックにするにしても、その辺はちょっと、舞台の大きさという点で、ご不満が出る可能性はありますよね。

## 市来委員

以前、僕の近くで、練馬区の区民ホールってあるんですが、そこは、確かに発表会的なことをやる方にとっては非常にすばらしいのは、大ホールと小ホールと舞台がほとんど一緒で、客席数だけが違うんです。すごい贅沢といえば贅沢なんですけど、同じフライが並んでいるんですね。遠くから見ると、同じ大きさの、要するに八間間口と十間間口とで二間違うだけなので、ほとんど遠目で見ると同じ大きさの四角いのが並んでいて、片方が592席で、片方が1,480席になっているんですね。ただ、やっぱりこの場合は、大ホールの方が空いているかな、小ホールの方がよく使われているという感じがしましたけれども。そういう作り方もできるけれども、これは、バブルより前の時なんですけど、高度成長期に入った時に作られた施設なので、そういうことが可能だったのかなあとと思いますが、そういう施設も確かに

あります。同じという、行くと、自分が大ホールに入ったのか、小ホールに入ったのか、客席に入った途端には見間違うぐらいのそっくりな2つのもの、そういうものもありますが、ちょっと今回のこの場所には無理かなあという気がいたしますので、どういう性格付けをしていくかということですね。

それで、あと、その辺の可変性というものを、多目的というよりも、多用途な可変性というものを、どうやって作り出していくかということは、考えていかないと駄目だと思うんですが、それは我々が考えることじゃないというのが、先程から僕が言っていることで、それは、それを考える専門家に考えて貰って、僕らはそれに対して駄目を出せばいいと、それから、注文を出せばいいと。その注文をきちっと出来るように、我々はいろんなことを話し合っておく必要があるだろうということだと思います。

### 桧森委員長

はい、分かりました。この辺については、今の市来さんのご意見のように、今後も話し合っていければいいかなというふうに思います。

### 小笠原委員

ちょっとお伺いしたいんですが、この可変型というのは、現在はホールという形式を基本として、平土間としても使えるかというような変化の仕方のように思いますけれども、こういうふうになってくると、ホールと平土間の境目がなくなってくるといいますか、自由自在と言え言えるんですけれども、そういうことであれば、逆に、平土間というものをベースにして、多少可変にして劇場型にするというようなスタイルの空間も可能かなあという気がしてきています。あるいは、平土間主体になれば、その方がある意味で使い勝手がいいような気がしますし。そうなれば、小ホールは小ホールとして、可変式ではないスタンダードな固定座席タイプで使っていくというような選択肢もあり得るのではないかと思います。実際にそういう使い勝手の方向で、新たなと言っていいのか分かりませんが、そういう平土間を基本とした可変式への空間づくり、という攻め方が可能なのではないのかどうか、そういうことをふと、この議論の中から思い付いたことなんですけれども、そういうことが可能であれば、それもまた、可変式仕様の新たな切り口になるかなという気がします。

### 関口委員

大ホールにしても、小ホールにしても、いわゆる市民グループ、サークルが使う場合には、横川さん、小田原は圧倒的に音楽の方たちの利用が多いんですよね。ですから、そういう方たちは、ホールの形態に関して、どちらを望む意見が多いですか。

### 横川委員

やっぱり、固定、段床式のホールが欲しいという声の方が、圧倒的に多いと思います。そういうように聞いています。

### 関口委員

音楽は、確かに音に敏感であるべきなんで、これは条件ではないんですけれども、ホール

の大きさにもよりますけど、やっぱり反響板、これは絶対的に欲しいものでしょ。要らないんですか。要りますよね。演劇の場合には、極端ですが、ジャンル、特質によっては、例えば舞台装置なんかなくても演じられるんですよ。幕なんかなくても。ただ、明かりは欲しいですよ、音を出す操作とかね。例えば、私たちのこゆるぎ座というのは、非常にリアルな舞台を、舞台一杯に組む訳です。端から端まで。それで何年か前に、横浜の杉田劇場で、あれは320ぐらいの小ホールですね、ここで世界演劇祭をやるから、小田原のこゆるぎ座が、神奈川県を代表して出場してくれということで、あれは60年ですか、小田原提灯という芝居を取り上げて、もちろんオリジナルですが、そうすると、杉田劇場の舞台、あれを小田原で組んだ9間の舞台を1間縮めただけで、ちゃんと額の中に入っちゃったんですね。それで、あそこのホールは、僕なんかは一度しか使ったことがありませんけれども、非常に好評なんです。ステージがゆったりと広いということです。これは固定席ですから。いわゆる劇場スタイルの作り方をされている訳なんですよ。演劇はどこでもできますよ。広場だって海だってね。音楽は音に敏感。芝居だったらどなっていけばいいんですからね。言葉をはっきり言えば。そういうこともちょっと参考になればと思って。

#### 松森委員長

いえ、大事な意見です。確かに、音楽の方が条件は有りますので。どうでしょうか、これは、先程も市来さんからもお話があったように、継続して議論する、場合によったら基本計画においてさらに議論をしていくという形で、もう少し絞った形の両論併記みたいな形で表現されればいいのかという気がいたします。どうでしょうか。

さて、もう時間もあと15分なんですけど、展示系機能についての議論をしたいと思います。展示系については、ここに書いてあるのは、「ホール系機能と対等な位置づけ」「ホール系機能の付随的な位置づけ」「他の場所に展示施設を整備」という3つの考え方と、規模について、ここでやる場合の規模について「100～150㎡」「350㎡程度」「1,000㎡程度」というのがあります。これについても、今後の検討に委ねるという選択肢も、この基本構想ではあると思いますけれども、この点についてのご意見を伺いたと思います。

#### 齊藤委員

文章化されるというか、整理されてきた段階で、結論が出ていないところを併記するというので、これはこれでもういいんじゃないかと思います。

ただ、1つだけ付け加えていただきたいと思っているのは、最後のところで、「今後の検討に委ねる課題」というところで、他のスペースも利用するという、この中に、今まで議論が出ていなかったんですけども、ホール系の施設も利用すると、ホール系の。これはできるかどうか分かりませんが、例えば、リハーサル室ですとか、練習室とか、そんな話も出たことがあったような気がするんですけども、それは今まであまり、この中に入ってきていなかったんで、そういうようなホール系施設の利用ということも、出来るかどうかではなくて、それも検討の中に入れるということはどうでしょうか、ということです。それだけです。

#### 松森委員長

はい、分かりました。ここは、展示室をベースにして、会議室など隣接するスペース、隣接するホワイエ、ロビーなど、と書いてありますけれども、それに、ホールも含めるということですか。

#### 齊藤委員

はい、ホール系の施設の利用も、そこに一緒に入れてしまえばどうかと思うんですけども。

#### 桧森委員長

はい、そうですね。それを含めて、今後の検討に委ねるということですか。それはいかがでしょうか、他の方は。

#### 大森副委員長

先程からの自由な空間についてですけども、例えば、資料館の場合、例えばなんですけれども、そこで例えば演劇をするケースも出てくるという意見も先程ありましたので、そういった他のパフォーマンス、展示以外のパフォーマンスもできるような言葉を入れるというのはどうでしょうか。

#### 齊藤委員

同じことを申し上げようかと思っていたんですけども、さっき小ホールのところで、平土間で、平土間の中であれば、ダンスとか、式典とかというような例もありました。これは、確かにホールの中だけで、狭い範囲で考えるのではなくて、展示系の施設の中で、展示場の中でそれはできますので、高い天井が必要だとか、舞台が必要だとかということになると、それは無理でしょうけれども、それは一緒に考えていただくという、それくらいの幅の広さってあっていいと思います。今、大森さんが言われたことと同じだと思いますけれども。

#### 桧森委員長

はい、展示施設であっても、もう少し多用途で使えるような工夫をするということですね。

#### 齊藤委員

はい、最初からそれを考えておけばいいことですので。

#### 桧森委員長

若いアーティストの人というのは面白い人達で、使えないというと無理やり使うみたいな性質があるので、使えないところをわざわざ無理しなくてもいいのというような使い方をするというのもあるので、大いにそれは、今おっしゃった用途以外にも、ひょっとしたら誰かが面白くやってくれるかもしれないですね。

#### 齊藤委員

成城のホールは、ダンス練習をあそこでやるって言っていましたね。あれは何も展示室で

やってもいい訳ですからね。

### 桧森委員長

はい、分かりました。他にいかがでしょうか。

### 小笠原委員

展示の件で伺いたいんですが、いわゆる展示スペースを使って、今まで横浜とか、鎌倉とか、いろいろ展示スペースを見てきたんですけども、あのスペースは大変稼働率が高いようだったんですけども、小田原の場合は、稼働率はどういうようなことが予想されるのか、その辺の問題について伺いたいんですが。

### 齊藤委員

はい、それは今回、配られました資料の一番後ろの方に、私なりに、資料3の2ページにわたって、その辺のところを数字化してみたものがございます。「展示系 今後の検討課題」ということで、展示スペースで何ができるか、何をやるべきかということ、ちょっとまとめてみましたので。一番最後です。どういうものに利用できるかということ、実はこれは私が考えた訳ではなくて、以前に市文連で、平成10年ですけれども、要望書を出しているんですね。その中にこういうことを記述してありまして、なるほどと、多少私なりに加えたこともございますけれども。これは、展示場の使い方、先程の、小ホールの平土間をダンスの練習に使うかという、そういう角度からのものは入れてありません。あくまでも展示場として、どういうものに使えるかという、展示という主体の中でやっていますから、これはそういうふうに見直していただければいいかと思います。この中で、今まで、第2回の会議の時に、現状の市民会館の使用実績の資料が出たと思いますけれども、それを全部集計してみましたのが、真ん中辺りにあります表です。これでいいますと、かなり一杯ですね。例えば、物販ですとか、そういうのも入れている訳ですね。そういうのも入れるのかどうかということにはなろうかと思いますが。それらを削っていきますと、かなり余裕は出ると思います。それまで入れちゃいますと、オーバーです。

### 小笠原委員

物販とは、美術や展示とは関係ない、商業利用ですか。

### 齊藤委員

企業関係ですね。企業が製品の紹介をやって、物を販売すると。

### 桧森委員長

展示目的の展示に、どのくらい使わせるかという問題も出てくると思うんですけども、このホールが出来た時の使い方として、そこは考えなきゃいけないんじゃないですか。高円寺とか、三軒茶屋ではそういう使い方はされてないですよ。

### 市来委員

今はしておりません。

#### 齊藤委員

今後も、入場料を取って鑑賞してもらい、例えば有名な絵画を持って来て展示して、というようなことになると、やらざるを得ないと思いますね。そういうケースはあろうかと思えますけれども。

#### 桧森委員長

呉服の展示会みたいなことは必要ないですよ。

#### 齊藤委員

今、例えば、展示室を使って、企業が絵画を展示して販売するというようなことはやっております、確かに。ですから、そういうようなものは、状況によって、今後も出てくるとは思えますけれども。ただ、大きくはないと思います。

#### 桧森委員長

こうやって見ると、稼働率はそれなりに、例えば400㎡にした場合の212日という予測が出ているのですけれども、それなりの稼働率があるという訳ですね。その程度が予想されるということですよ、この資料によりますと。

#### 齊藤委員

これはあくまでも、資料を集計しただけですので。

#### 桧森委員長

今後の検討に委ねるということでは、展示スペースの使い方の多様性みたいなことも検討していく訳ですけれども、齊藤さんとしては、展示室の大きさとして、現段階で考えられる大きさとしては、どのくらいが必要だと思われますか。

#### 齊藤委員

これは、使い方があるんですけれども、1,000㎡という数字を前に出しましたけれども、これをデンと1つ専用にするということは、まず現実的ではないですよ。ですから、ある程度の規模のものを1つこしらえて、それで足りない分を他の施設で補っていくと、それが先程言いましたように、他のスペースの利用ということになろうかと思うんですね。では、いくらぐらいが有ったらいいかというと、350㎡とか400㎡。これはなぜそういう数字がいいかかというと、例えば巡回展で、他のところから作品を持って来て、巡回展といっても、大きなものではなくていいんですけれども、この間も出ましたように、例えば県展の入選作と、その土地の人達の作品を集めて、大体あそこは400㎡使っているんですね、厚木が。だから、その程度のものをやるとなると、まとまったスペースとして必要ですので、それが300㎡から400㎡だろうと。それがベースとしてあって、あと足りない分は、廻りの施設で補っていく。例えば、天井の高さを考えた場合でも、400㎡ぐらいのものにつ

いてはまあ、3 m半ぐらいが必要で、それ以外の付属するところは、普通の3 mの天井でいい訳ですね。例えばこの辺のところでもいい訳です。大きな作品を並べる訳ではございませんから、会議室でも使えますし、ホールでも、ホールというか、ホワイエとかロビーなんかでもいい訳ですね、条件さえ揃ってれば。というふうにイメージしております。

#### 桧森委員長

だとしたら、ここは、そんなに両論併記じゃなくて、それを核にして、あとそれ以外のスペースと、それからこのスペースの用途みたいなことを打ち出せばいいのかなという気がしますけれども。

#### 齊藤委員

そうですね、あとは設計者の宿題ですね。

#### 桧森委員長

では、ここは両論併記ではないということで。他にご意見はいかがでしょうか。

#### 齊藤委員

今、お隣から知恵が入りまして、いわゆる、ベースとなる専用展示場として、どのくらいのものであったらいいかというのは、やはり400㎡ぐらいのものをね。先程言いましたのは、やはり厚木の県展のあれなんか見ましても、確か400㎡から420㎡ぐらいだと思いました。ですから、そのぐらいのものであった方が、使いやすいと思います。

#### 桧森委員長

では、みなさん、それでよろしければそれでいきましょうか。あとは、設計者の宿題ということになります。400㎡規模でということになります。

あと、創造系機能+支援系機能、それから交流系機能とありますが、それについてはいかがでしょうか。ここについては、もうちょっと検討して、知恵を出していきたいと思います。私も、可児のように、ホールで出し物がなくても、平日でもお客さんが来るような場所になるといいなと思っております。いかがでしょうか。

#### 市来委員

先程の最初の時に、桑谷さんがおっしゃった交流というのがありましたね。ここの交流とは意味が違うので、交流という言葉を整理していただいた方がいいかなと。どこに使うのを交流という言葉にするのかとかね、それはちょっと意味合いが違うところで使われていると思うので。大きな意味では同じではあるんですけど、直接的には違うことになっているので、ここの交流というのと、前の方の施設貸出のところを交流というのと、ここの交流は違うので、それは整理していただいた方がいいと思います。

#### 桧森委員長

そうですね、施設貸出というのは、その施設でのいろいろ出し物を通しての交流というこ

とを言っている訳ですから、ここはそれのない、本当の交流みたいな、そういう機能を言っている訳ですから。

ここで、創造系機能と支援機能というものが入っておりますので、そういう部分も含めて考えていくということよろしいでしょうか。

では、次の、管理運営機能についての部分、22ページから26ページの部分です。これについては、まだいろいろと議論のあるところだと思いますけれども、私は、機関としての組織づくりみたいなことを提案をしています。基本的には、市民がこのスペースを使っていることをやっていくという部分、まあ、それを貸出と言え言える訳ですけども、しかし、実際には、このホール自体がさまざまな仕掛けを作ることによって、市民の文化活動を刺激していくという機能を持つ必要があると思います。それを、そういう機能を称して、機関という言葉を使いました。これについての皆さんのご意見をお聞かせください。

### 勝又委員

この管理運営についてです。25ページ、他の文化施設との連携というところで、これはこれで、内容的には全く問題ないと思いますが、もし、(2)の他都市、あるいは、小田原市内のホールとの連携、運営的な連携ということは、ここに書いておいてもいいと思います。要するに、施設の考え方、スペックを考える時に、施設内容について考えるときに、市内の他の文化施設との棲み分け、ここの「また、同時に」というところがそういう話なんですけれども、それを移した方がいいんじゃないかなというふうに思います。やはり、さっきの、静岡市の清水じゃないですけども、周りの、今現在ある施設のスペックというものを考え合わせながら、今回の市民ホールのスペックも考えていかなきゃいけないかなと思います。

### 桧森委員長

はい、分かりました。これは、資料はなかったですか。

### 高瀬主査

参考資料1という、一番最後のところに「小田原市所有の文化施設等の状況について」という資料を付けさせていただいております。

### 桧森委員長

勝又さんの言ったのは、この機能の上のところもそうなんですけれども、機能のところに入れて、これも検討して機能の中に入れて、そういう形ですね。その辺も必要じゃないかということですね。それから、運営について言えば、今、ここに書いてあるように、棲み分けを意識しながら。先程、事務局に聞いたところ、他の施設はネットで申し込みができるようになっているらしいですけども、市民会館はそうじゃないんですね。当然、新しいホールができた時には、連携して、例えば、市民会館にコンシェルジュ機能みたいなのがあって、利用相談なんかを受けながら、だったらこの場所がいいですよみたいな形でやっていくような、そういうことも必要になってくるんじゃないかと思います。

### 桑谷委員

今の4の(2)で、言葉の訂正ではありませんが、言葉の追加です。「ホールの運営方針を同じくする文化施設との連携を取り」とありますが、「ホールの運営方針や規模を同じくする文化施設」と、「規模」を足した方がいいんじゃないでしょうか。

### 桧森委員長

実際問題として、規模が同じであれば、同じ公演を共同で制作したり、回したりすることができる、規模が違うと難しい。

あとは、すごくさりと、本来ならば議論百出するべきところが出てくるんですけども、「専門性の確保」のところですね。「専門職員の配置」それから「プロデューサーや芸術監督制等の導入の検討」ですね、この辺は、議論し出すと1日では終わらないと思いますけれども。

### 市来委員

そのことよりも、桧森さんが出していただいているんですが、市民参加の問題ですね、これちょっと、市民参加についてはちょっと、事例を、事務局は大変でしょうが、ちょっと調べていただいて、今、例えば、アーラクルーズとか、特徴的なところはあるんですが、そうじゃなくて、市民ボランティアが結構、運営に参加しているところとか、ある場合、フェスティバルだったらそれをやっているというところもあるんで、喜多方でやっている、夏の子供のフェスティバルとか、ああいうのは、完全に市民参加でやっていて、それから、市民ボランティア、あそこはホールが資格を出して、パスポートを出して、その方たちが実際に機構操作から何からやるようなこともやっているというようなことも聞いているので、僕も聞いているというだけなので、ちょっと伝聞資料でしかないので、市民参加というのは、実際には、具体的にはどういうことが可能なのか、その、運営委員会みたいなところを市民参加でやられているところ、北上のホールとか、そういう事例があると思うので、そういったものをちょっと、調べていただけるといいかなあというふうに思いますが。その辺、桧森さんの方もデータがあると思うんですが。

### 桧森委員長

そうですね、私の方もありますけれども。ある程度、市民参加については、ものすごく幅がある訳です。それこそ、館長さんが市民というホールも当然あると思いますし、そうかと思えば、もぎりだけ市民がやるみたいなホールもあります。

### 市来委員

そういうものも全部含めて、伝聞なので、事例の一例ぐらいで、特徴的なのを挙げていただくと、そのことのイメージがどういうことなのかということが分かるかなあというふうに思うんですが。

### 桧森委員長

ではこれは、事務局と私の方で協力して、いくつかパターンを分類して出していきましょう。

### 桑谷委員

今、市来さんが心配されたのは、市民参加というのは、一般的には行政の、経費の削減のためにボランティアとして参加してもらおうという事例が多かったんですけども、いつまでも無料ボランティア的な発想じゃ駄目ではないかということだと思います。本来の市民参加というものは、すべてにおいて自立しているものだと思います。

### 桧森委員長

そうですね、その一方で、市民参画のことが、行政からのミッションで出ちゃっているんで、逆に行政が一生懸命市民参画を仕掛けて、で、結局どうなるかということ、市民がお客さんになってしまって、次は私たちのために何をしてくれるの、みたいな形になってしまうというケースも現実にはあって、その、市民ボランティアの方たちの世話をするために、職員が1人張り付かなければいけない状態になっているホールって、実は結構あるんです。ですから、このホールについては、最初からそういう市民参加にはしたくないですよ。そうじゃなくて、市民参加というのは、何らかの形で市民が責任を持って運営に参加していくということだというふうに思うので、間違ってもお客さんではないという、そういう市民参加をスタートの時点から考えていかなければならないんじゃないかなと思います。

### 勝又委員

今、桧森委員長がおっしゃった、「責任」とさらりとおっしゃいましたけれども、いろんな責任があります。最悪、人が怪我するとか、そういうものもありますし、それから、(自主公演で)大赤字を出してしまったというのものもあるかもしれません。だから、「市民参加」といっても、確かに定義が広過ぎるので、どの辺までを今回は取り込んでいくのかを検討した方が良くと思います。例えば、市民が最終的な赤字まで責任を取る、それを市に取ってもらうのではなく、というところまで踏み込むのかどうかです。あるいは、市民によるNPO法人として、館の運営そのものをやってしまう、自分でお金を調達して、銀行からお金を借りて運営していく、そこまでやるのか、どの辺までやるのか。多分、松竹梅、いろいろなパターンがあると思います。

### 桧森委員長

そうですね、その辺をいくつかのパターンがあると思うんですが、どの辺をやるのかということになると。どの辺までできるかということですね、それを検討していく必要があるのかなと思います。

### 市来委員

それで、逆に戻るんですが、その時に、それを良導する専門家というものがない中では、それは実際にはいかないので、それで専門性の確保というのは、そこに出てくるんだと思います。

### 桧森委員長

そうですね、専門性の確保と市民参加というのが、車の両輪みたいなものですね。

それ以外のところについては、運営方式については、今の議論も含めて、今後の検討課題として残ると思います。最後に景観についてですが、これについては、事務局の方から、資料があるようですので、説明をお願いします。

## アクト環境計画 林

それでは、資料といいますか、今日はパワーポイントの方で、画面を見ていただければと思います。今日お持ちした内容は、こちらにございますけれども、その手前、お城の中の馬出門、銅門といった辺りから敷地の方を見た時に、建物のボリュームがどのように見えるかというのを、写真に建物のボリュームをパソコン上で作ったものを合成いたしまして、それを見ていただくということでございます。

まず、こちらの方、馬出門の手前のところ、敷地に一番近いところでございますけれども、この位置から見た絵をご覧ください。これは、敷地に近いですので、建物のボリュームはかなり見えております。これは、建物の位置を2つ作っております。これは敷地から5m離れたところに20mの壁が建ち、それから奥に見えておりますのが30mのフライズでございます。建物からフライズの位置までおよそ40mぐらいのイメージを持っていただければと思います。後ろに東京電力の鉄塔が見えておりますが、こういう位置関係です。これが、敷地の境界線から30m、まったく同じボリュームの建物を離した場合の見え方というのが、こちらの右の方の写真でございます。フライズがちょっと濃い色になっているのが大ホールの30mのフライズ、それから低い方、これが20mの高さを持つ小ホールのフライズ、取りあえずそんなイメージを入れております。ということで、この位置からは一番大きく見えるということです。

次に馬出門を通してどのように見えるかという絵でございます。このような感じですね。向う側に見えておりますのが、建物のボリュームです。こちらが敷地から5m、こちらが敷地から30m離れた場合です。遠くになりますので、奥のフライズが逆に少し見えてきてると、そんな状態です。

次に、3番は、住吉橋のところから敷地の方を見たところです。このような絵です。ここに見えておりますのが、建物のボリュームということで、周辺の、これは駐車場の建物ですけれども、周辺の他施設もここからは非常によく見えるという状況です。

次に、これは銅門の枡形のところですね、こんな感じです。これが敷地から5m、これが敷地から30m、距離が出てまいりますと、あまり差がなくなってくるという状況がございます。

次に、銅門を通して敷地を見ると、こういった状況です。敷地から5mのところは、大ホールの30mの高さのフライズがよく見えると、こちら敷地から30m離れますと、大分、沈んできているといいますか、分かりにくい状況まで低くなっているというか、隠れているという状況でございます。ざっとですけれども、いくつかのポイント、代表的なところを合成して見ていただいたという状況です。

## 杉山主査

続きまして、前回、小笠原委員の方からの宿題がございました、周辺の文化財調査の状況

についてです。前回の計画で、こちらのこの点線部分ですね、これが平成17年から19年に調査を行った部分です。ここで、前回もお話があったと思うんですが、ここの辺りですか、石積みの側溝が付いた道路が発掘されたんですね。この辺については、すごく状態がいいということで聞いています。それから、平成3年から平成4年にかけて、東電の社屋の建て替えの際に調査を行いました。その際に、江戸時代前期、大久保さんの前期の頃なんですけれども、そちらのお堀の遺構が発掘されたと聞いています。今後なんですけれども、平成22年、今年度から、こちら、前回の計画で言うと駐車場の部分になっていたところなんですけれども、ここと、今度、拡張予定地、こちらになるんですけれども、こちらと、こちらについては、平成17年から19年に調査した、大久保弥六郎さんの跡地なんですけれども、この連続したものが出るんじゃないかということで、文化財課の方からは聞いております。以上でございます。

### 桧森委員長

ありがとうございました。ちょっとこれを映している状態で、もし質問があれば。

### 小笠原委員

さっそく作っていただいてありがとうございました。やっぱりこうやってビジュアルで確認すると、分かりやすいですね。あの、ホールを想定した位置は、これでいくとどの辺になるんでしょうか。

### アクト環境計画 林

簡単な絵しかないんですけれども、位置的には、敷地から30m離れたところに最初の壁が来ているという、そこから、おおよそのボリュームを取るとこんな感じ。大ホールの方は舞台の後ろに楽屋ゾーンが来るような絵にしています。そういったボリュームだと思います。これを簡単に立ち上げますとこんなイメージです。非常にこれは誇張して描いてありますから、高く見えますけれども、この部分が30m、この部分が20m、小ホールのフライズが20mということで、先程見ていただいた絵になります。

### 小笠原委員

そうですね、まあ、30mセットバックすると、大分抵抗感は薄らいでいくということですね。私はもっと南の方に寄っていたかなあとと思ったんですけど、かなり正面も一杯使う、正面に小ホールを置くという格好になっているんですね、これでいくと。

### アクト環境計画 林

2つ並べている状態です。これはあくまでも簡単に並べただけですので、実際にはいろんな案が出てくるという前提でいただければと思います。

### 小笠原委員

取りあえず、概要の当たりをつけておくということが、大事なことですからね。これが実際に設計していくと、どういう格好になっていくのか、まだいろいろ、また不確定要素もあ

るでしょうけれども。まずは仮に設定してこうして見ていけば、いろいろ検討のしようがあるかと思いますが。これは一応こういうことで、もう一度戻して、銅門の中からの映像を見せていただけますか。はい、これですね。これは、銅門の内側の何m地点ですか。

#### 杉山主査

これは、外側でして、敷地から150メートルぐらいの位置です。

#### 小笠原委員

向うの敷地から150メートルですね。銅門の門から内側は計ってないですか。

#### 杉山主査

計ったんですけども、今ちょっと手元にないです。

#### 小笠原委員

これはちょっと、だいぶ距離があるんだよね。でも、まあ、これだけ、実際下がれば下がるほど、高い所は上に出てくるということなんだけど、これは、ここまで下ってあそこまでだからね、こうなると、例えば、フライタワーのところなんかの部分を和風な屋根用の仕様にすれば、なんとなく、ある種の融合感が出てくるかなあという気がしますね。これ、あんまり高く出て、ガラス面とか壁面が出てくると、ちょっとつらくなりますけれども。まあ、屋根ぐらいだけだったら、いろんな工夫の余地があるんじゃないかなというところでしょう。まあ、我々が計ったのは、銅門から内側12m地点と5m地点でセットしています。はい、分かりました。これはこれで参考にさせていただくということにしたいと思います。

#### 桧森委員長

大変参考になりました。ありがとうございます。私が見た印象では、30m下がるというのは、かなり効果があるということですね。他にいかがでしょうか、景観については。

#### 関口委員

これも私特有の考え方で、さっき、自然と同化するというので、私は今度の候補地というものは賛成した1人です。ということは、今はこれを見ますと、お城の中から外を見たという、視点がそこにいていますが、私は、今度できるホールは、名称は別としてね、市民ホールというのは、ホールの文化性、そこで行われるいろんなこと、また、そこに馴染んでくださるいろんな関心を寄せる多くの人達が、こちらから見て、城址に融合していくというんですか、こちらからでも、城址の景観などを取り入れるようなことも許されてもいいんじゃないかということが、1つの持論だったんです。例えば、ずっと前に言いましたけれども、今の予定地で、お堀があり、松があり、天守閣が望める、これがホールから、憩いの場としてそれが一体となっていく、これが、僕は最高の小田原のホールの理想だと。これはあくまでも、私の主観としてください。そういった意味で、先程の、自然との調和とか、お互いに取り組みあう調和の美しさ。そういうような意見を、あくまで参考として申し上げたんです。これは異論ではありません。そういう希望です。

## 桧森委員長

大津にあるびわ湖ホールなんかは、ホールのホワイエのところから、琵琶湖の景色が一面ガラス張りのところから見えていて、それが借景になっているんですけども、それが、そのホールの雰囲気みたいなものを非常に盛り上げる効果があるんですね。そういう意味では、いろんな形で、関口さんがおっしゃったように、外と中が一体、中に外を取り入れるみたいな、そういうアイデアも多分いろいろあるので、この辺、多分設計者の腕の見せどころではないかなというふうに思うので、楽しみな部分ではあります。

## 小笠原委員

こういう環境のところで設計するというのは、設計者は割合飛び付くんですよ。それはやっぱり、これだけ空間があって、環境があれば、非常に引き立つということになる訳ですね。ですがね、やっぱりそこに抵抗がありまして、それは、設計者は、あくまでも自分の設計したものが引き立つという、そういう観点でね、前の城下町ホールなんかは、典型的なんですよ、このお城をバックにして、いい、こういうものができるという、あくまでもお城を背景にした格好でね。まあ、自分のところの建物が、お城から見た景観でどういうふうにならぬかという点には、あんまり頓着ないというところに行っちゃうんですね。でまあ、今回は、こういうふうなセットバックで、20mの高さですから、割合、前よりは抵抗感は和らいできましたけれども。

ただ、私はね、こういうところにホールがあるという発想は、必ずしも執着する意味があるのかなと。私はやっぱり、ホール機能から考えれば、できるだけ交通機関の近いところにセットした方が、使い勝手としては大きい。やっぱり、ここまで駅から歩くと20分、それぐらいかかりますから、ちょっとしんどい距離ですよ。今のホールからさらに南へ移る訳ですからね。もう1つ、城址公園の全体を考えると、あそこは大手になりますから。大手からお客さんを入れるという、導入部分を考えなきゃならないところですよ。ですから、本来は、大手のところに広いスペースの駐車場があって、正面からお迎えするというような形のレイアウトが、本来のあるべき姿だと思います。今はみんな、横丁とか裏口から入ってくるコースなんですよ。こんな、やっぱり、小田原の奥座敷になるところを、横丁から、裏から入れて喜んでいっているなんていうのは、これはちょっと馬鹿げた話なんで、そういう点からいくと、非常に今の城址の設定のあり方は、アブノーマルであると。やっぱり、これは都市計画もうちょっと整理して考えなければならないと、そういう視点に立っています。そういう点で、あそこに置けば置いたという格好になるんでしょうけれども、私は、ホールというのは、基本的には都市機能として、より便宜性のあるところで位置付けて考えていく、そういう余地があるものなので、この辺は、私はもうちょっと柔軟性を持って考えていいところだなあと考えております。

## 桧森委員長

位置の問題については、実はこの準備会の議題には入っていないので、しかるべきところで議論をしていただいた方がいいと思います。ただ、作るとしたらああいう形になるよ、ということと、それから、私たちは、建築については、設計家が提案したものについては、落

とせる訳ですから。落とせばいいんです。落選させればいいんです。そのデザインの問題でも。まさかあの場所で、ヤマダ電気の建物みたいに黄色く塗ったようなものを提案する設計者はいないと思います。いたら落とせばいいんです。そういう形かなと思います。

それでは、景観についてはそういうところで、最後に準備会からの提言の部分、資料の2、9ページから33ページなんです。この部分はお手元にあります資料3、それぞれのいただいた提言というものです。この部分が要約されて出ているところプラスアルファですね。8番のところですね。これも、基本構想としては、この準備会の意見のうち、引き続き検討が必要な課題や今後の基本計画の検討に委ねていくものを、提言として付け加えているという部分ですので、そこのご意見をいただきたいと思います。

### 大森副委員長

私個人で、ある団体で、9月に毎週市民会館を使わせていただいたんですが、まだ数年今の状態で使わなければいけない現状があるということを考えて、新しいホールではなくて、今の現状で最低限改善してほしいことが2点あります。

まず、楽屋周りのトイレですね。トイレを新しくしようというレベルではありません。正直なところ、もし、ゲストの人が来たら、文化レベルを疑うような状況があるということです。私が子供のころから40年経っていますけれども、何一つ変わっていないトイレです。ティッシュボックスがどうなっているかという、水が流れるパイプに太い針金が巻いてあって、そこにトイレトーパーがむき出しで刺さっている状態なんです。これがゲストの楽屋回りのトイレの中なんです。それから鍵も、入っている時に「空き」、使っていない時に「使用」となっています。これは2階のトイレのことを言っています。ティッシュケースの針金については、地下もそうですし、各階そういう状態です。これは、早急に何とかしていただきたいと思うのと、もう1点なんです。2階の第2楽屋の向かい側にある、以前は応接室だった部屋を、今喫煙室になっているんですね。これ、使う団体によっては、喫煙室を楽屋として使っていますので、今ものすごいヤニの染み付いた状態になっています。禁煙が今騒がれている時代に、喫煙室で、一番きれいな、会館で唯一、ソファーストとか、絵画ですとか飾ってあるお部屋を喫煙室にするのは、ちょっと早急に検討して改善しなければならないのではないかと、強く感じました。ちょっと今、取りあえず2点だけ挙げさせていただきました。

### 桧森委員長

この問題は、現在の市民会館の問題なんですけれども、今、新しいホールを検討している時に、新しいホールを検討している人達が、現在の市民会館について、そういうところまで神経が行き届いていないのかというふうに思われると、本当にこの人たちが検討できるのと思われかねないので、大してお金の掛かる問題ではないですし、やっぱり、新しいホールに向かっていくということの前提としては、今大森さんがおっしゃったことぐらいは、改善した方がいいんじゃないかなという気がいたします。これは、委員会の提言ではなくて。

それでは、他に、皆様からいただいた提言も含めてここに書かれていますけれども、いかがでしょうか。

これは、こういう形でまとめられているということですので、読んでいただいて、文言等

直すところがあれば、宿題にして、提案していただくという形にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。ではそのようにいたします。

市来さん、桑谷さん、齊藤さん、そして私から提言を出しておりますが、これについて、ちょっと一言ずつお願いしたいと思います。では、市来さんの方から。

### 市来委員

どうしても宿題をと言われて書いたものですから、読んでいただいて、ここで、これについて説明しても何でするので、読んでいただいて、他の方と違う点があったら、違う点も含めて、今の段階では、前の方でも両論併記にしているので、そのことはそのことで入っていてもよろしいんじゃないかなというふうに思います。今、大森さんがおっしゃった、現在の施設という、別の資料に出ていますけれども、我々もマロニエホールや今の市民会館を見たりして、それから、けやきホールを見て、まだまだ今の段階で改善する余地とか、いろんなことが考えられるので、その辺のところも含めてで、本当は話を進めていきたいなと思うのです。但しそこまで今期、話が進むか分かりませんので、両論併記でとにかく出していただいて、なるべく討論していくということでもいいかなと思います。この文化施設の状況については、非常に、困っている方が一杯おられるんだなあということが、非常によく分かる表になっているなあというふうに思います。このリストの中に隠れた市民の声が入っていると思うんですね。その辺も含めて、今度のホールにくみ取ればいいかなとも思います。現在の状態は、グランドプランがないままに、それぞれ福祉で必要だ、何で必要だ、これで必要だといって、小さなホールがいくつもあるんだけど、全体のグランドプランが今見えていない状態なんです。それで、所管課もみんな違うと、確かに設置目的が違うというのはあると思うんですが、その辺も含めてみんな集会だったら全部集会で、目的一緒じゃないかと言えばそういうふうになるし、練習施設だったらみんな同じ。どこまでこの今回の市民ホールと同じカテゴリーに入るのか整理し、入らないものは、ここの検討とは離しちゃった方がいいと思うんですね。で、カテゴリーとして合うものについては、一緒に検討しましょうとすればいいと思います。それで全体で、小田原の市民の文化活動が有効に発展していくためには、どうしたらいいかということは、多分、ここの場で、この次の段階で話し合うことかもしれないんですが、そういうふうに進められたらと思うので、僕の書いたのは、そんなことも含めて書いてありますので、それも含めて、両論併記で進めていただければと思います。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございました。あと、桑谷さん何か。

### 桑谷委員

僕も宿題ということで、それにお答えするような感じで書かせていただいたんですけども、この間、いろいろと議論を積み重ねてきましたが、それでも議論をされていないというか、議論の度合いが少し弱かったところを補足するような形で書かせていただきました。それが基本構想の中でどんなふうにまとめていただけるかは、それは事務局の方にお任せするとして、取りあえず課題として書かせてもらいました。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございます。あと、齊藤さんはお出しになったものに付け加えることありますか。

### 齊藤委員

一応、400㎡の専用展示場をこしらえて、その中に今やっているものをぶっ込んでみたらどんな形になるかというのを、今まで出されている資料をもとに整理しただけでございませう。ただ、その中で、大きな催し物として、現在けやきホールを使って文化祭をやったり、市の美術展をやっていますので、新しい、設備の整った展示場ができれば、これらは新しい展示場でやるということになると思うんですね。それを入れてみて、前にお出しいただいた第2回の時の資料、その数字を入れてみただけでございませう。実際にどのくらいの量になるのかなあということ、私なりに見てみたというのがこの資料でございまして、これで見ますと、展示だけ、その前提となるのは、上の方に、展示の用途ということで、いろいろ、こういうことに使えますねということで並べてありますけれども、実際に資料のあれをまとめてみますと、50%の稼働率、使用日数で言っても、展示だけを考えますと。というのが見えてきたと、この中には、実際には、総会であるとか、大会であるとか、式典であるとか、講演、講話とか、こんなことも実際使っていますので、これを今度の時にやるかどうかということですけども、それをやってくると、ちょっとはみ出してしまおうと。まあ、大雑把にどのくらいの数字になるかなというのを、キャパシティなんかを入れ込んでみた場合の、そういう形で私なりに見たものですので、まあ、そんな感じで皆さんにも見ていただければいいかなと思います。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございます。あとは、私ですけど、私のは、これは読んでいただければ。市民参加による運営、及び基本設計、実施設計への市民参加ということ、その前提としての文化ホールの使命、それが書いてございます。まあ、提言として取り上げていただけたところがあれば取り上げていただければというふうに思います。

では、ひととおり、この基本構想について触れて、大分時間がオーバーしてしまいました。限られた時間ですので、充分でなかったことについては、宿題として事務局の方に提出していただくというような形で解決していきたいと思いますので、何かありましたら、事務局の方にお出しいただければと思います。

## ○ 議題（3） その他

### 桧森委員長

議題3、その他とございますが、皆様他に何かございますでしょうか。

### 小笠原委員

これからのスケジュールですね、まとめの段取りみたいなもののイメージがあったら、言っていた方がいいかなと思いますので。これは、事務局の方になるのか、まとめてい

ただけたらと思います

### 桧森委員長

それでは、今のことも含めて、まず事務局の方から、先程の宿題の、宿題というのは文言を直すところがあれば直して、さらに言いたいことがあれば言っていただいて、それについての締め切り等、今後のスケジュールについて、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

### 座間文化交流課長

今日は、本当に盛り沢山になり、また、初めての資料をぎりぎりになってお出しし、本当に申し訳なかったんですけども、読んでいただいてありがとうございます。一応、次回が最終的な検討という形になります。ということもありまして、今日はまだまだ議論が足りない部分もあったかと思っておりますので、ご意見がある部分についてお寄せいただきたいのと、表現等についても、この表現はこういうふうにした方がいいんじゃないかと、できましたら時間の関係もありますので、具体的な感じで言うだけでいいかなと、なお有り難いかなと。桑谷委員の方から、具体的にこんなふうにしたらどうかというようなアドバイスをいただきまして、非常に有り難かったですけれども、そんな形でいただければ嬉しいかなと思っております。これにつきましては、11月1日までに事務局の方にご連絡いただければと思います。そして、それをその時点までにまとめさせていただきまして、まとめきれないものは後ほどの意見として、別冊子として出させていただきます。11月1日までにいただいたものを、次の資料といたしまして、基本構想案を直すという形でまとめさせていただきたいと思っております。

議論は次回が最終になりますので、そこで議論をしていただいて、そこである程度やっていくということで、その後については、委員長にある程度お任せいただくというような形にさせていただければと思います。一応、今のところは以上です。

それで、次回の会議についてなんですけれども、日付は既にご案内しているとおり、11月8日月曜日になります。午後6時からですが、場所がここではなくて、3階の全員協議会室というところになります。入口のところにご案内を出しますけれども、この場所ではないので、ご注意いただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

### 桧森委員長

はい、ありがとうございます。それで、11月8日が一応最終で、後はある程度、委員長にお任せいただくような形にして、まとまって、それを市長に出すのでしょうか。

### 座間文化交流課長

はい、そうですね、それを委員長と副委員長から市長の方に提出していただいて、それをもって、市の方では市民説明会とかをやって、市の方の構想という形でまとめていくようになると思うんですけども、また、ここでも提言をいただいておりますけれども、次年度以降についても、これをもう少し細かく議論していくという場を持ちたいと思っておりますので、またその辺についても、いろいろとご協力いただきたいと思っております。この委員会につきまし

ては、また市民の意見とかを聞きますので、年度内に1回だけは開かせていただきたいと思います。それで、一応、準備会としてはそれが最後という形になって、また、次年度もご協力いただき、まあ、形はこの形じゃなくて、もう少しワーキングをして詰めていくということが出てくると思うんですけども、この辺につきましては、また検討させていただいて、いろいろご意見をいただいていますので、そんなご意見をもとに検討していきたいと考えております。

#### **小笠原委員**

次回の委員会といいますか、検討会のスタイルというものは、ある程度構想というか概略のイメージというか、そういうものは出来ているのでしょうか。

#### **座間文化交流課長**

一応、今回は今後の提言という形でいただきますので、そういったものを踏まえて予算化を図っていきたいと思っているんですけども、イメージとしては、まあ、こんなイメージという程度であれば出せるのかなとは思いますが、具体的にこうこうというのは、これから予算審議などもありますので、逆に提言をいただいて、それからという形になっております。

#### **桧森委員長**

はい、という流れだそうです。それでは、以上で本日の議事はすべて終了いたしました。何としても8時には終わりたいなと思っていたんですけども、一応8時台には終わりましたね。どうもありがとうございました。